

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	言語学			授業形態	講義
履修学年	1年生(37期)	時間数	30 時間	単位数	2 単位
担当教員	鈴木 あすみ	履修分類	基礎科目	科目分類	言語

授業概要	手話通訳技能認定試験の試験対策を行う。授業は講義形式で進める。授業資料はClassroomにて配布。
到達目標	手話通訳士試験の筆記科目「国語」で、合格点を取る。
授業内容(予定)	
1	母音と子音
2	音素
3	アクセントとイントネーション
4	単文と複文、接続詞
5	文の構造
6	テンス、アスペクト
7	ヴォイス
8	モダリティ
9	修飾
10	語用論
11	模擬テスト
12	模擬テスト解説
13	練習問題(1)
14	練習問題(2)
15	総括
成績評価の方法	授業後に課す確認問題、模擬テスト
成績評価基準の内容	授業への参加態度(20%)、授業後に課す確認問題(30%)、模擬テスト(50%)
教科書(テキスト)	『手話通訳者のための日本語演習』(全国手話研修センター)
教員紹介	国立国語研究所／日本学術振興会 特別研究員-PD(聴者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	応用言語学			授業形態	講義
履修学年	1年生(37期)	時間数	15 時間	単位数	1 単位
担当教員	市田 泰弘	履修分類	基礎科目	科目分類	言語

授業概要	言語への理解を深めるために、応用言語学の基礎を学ぶ。 テキスト『ことばの力学』にもとづいて学生が発表し、ディスカッションを行う。
到達目標	手話通訳士試験の筆記科目「国語」で、合格点を取る。
授業内容(予定)	
1	標準語と方言
2	標準語と方言(2)
3	国家と言語
4	国家と言語(2)
5	バイリンガルは悪か
6	バイリンガルは悪か(2)
7	外国語教育
8	外国語教育(2)
9	手話という言語
10	手話という言語(2)
11	言語と文化
12	言語と文化(2)
13	無意識への働きかけー政治・メディアのことば、法と言語
14	無意識への働きかけー政治・メディアのことば、法と言語(2)
15	言語障害、言語情報処理はどこまで来たか
成績評価の方法	授業内での発表とレポート
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、課題・レポート提出(50%)
教科書(テキスト)	『ことばの力学』(岩波新書)
教員紹介	手話通訳学科元主任教官(手話通訳士)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	日本語			授業形態	講義
履修学年	1年生(37期)	時間数	30 時間	単位数	2 単位
担当教員	鈴木 あすみ	履修分類	基礎科目	科目分類	言語

授業概要	手話通訳技能認定試験の試験対策を行う。授業は講義形式で進める。授業資料はClassroomにて配布。
到達目標	手話通訳士試験の筆記科目「国語」で、合格点を取る。
授業内容(予定)	
1	イントロダクション
2	語の成り立ちと意味
3	複合語
4	類義語・対義語
5	語種
6	慣用句、比喻
7	四字熟語
8	敬語
9	形態素
10	品詞
11	活用
12	日本語の書記(正書法・仮名遣い)
13	日本語の位置(世界の中で見た日本語、公用語、方言、やさしい日本語)
14	模擬テスト
15	模擬テスト解説、総括
成績評価の方法	授業後に課す確認問題、模擬テスト
成績評価基準の内容	授業への参加態度(20%)、授業後に課す確認問題(30%)、模擬テスト(50%)
教科書(テキスト)	『手話通訳者のための日本語演習』(全国手話研修センター)
教員紹介	国立国語研究所／日本学術振興会 特別研究員-PD(聴者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	文化人類学			授業形態	講義
履修学年	1年生(37期)	時間数	30 時間	単位数	2 単位
担当教員	吉田 優貴	履修分類	基礎科目	科目分類	社会

授業概要	・通訳者の資質としての「異文化理解」の基盤をつくる。そもそも「異なる」と捉える際の物差しが何に基づいているのか考える。 ・主としてアフリカ(特にケニア)の具体事例から、文化人類学的思考を養う。 ・本授業でいう「文化人類学的思考」とは、『異なる人や物事』に関心を持ち、『異なる人や物事』を知ろうとする過程で学んだことから、自分たちの『当たり前』を問い直すことである。
到達目標	手話通訳士試験の筆記科目「国語」で、合格点を取る。
授業内容(予定)	
1	オリエンテーション
2	アフリカの多言語状況のとらえ方
3	複数言語使用と言語観
4	手話使用と手話観
5	「物を言う身体」
6	ケニアのろう者と聴者のやりとりから見えること
7	アフリカの人々と食(1):食物、料理の特徴
8	アフリカの人々と食(2):「共食」の習慣
9	アフリカの人々と食(3):飲酒と禁酒
10	アフリカの人々と食(4):飲酒とキリスト教信仰、植民地統治
11	人々のつながり方(1):ゆるやかなつながりと「民族」・「部族」の創設①
12	人々のつながり方(2):ゆるやかなつながりと「民族」・「部族」の創設②
13	人々のつながり方(3):もめ事と和解の論理①
14	人々のつながり方(4):もめ事と和解の論理②
15	期末試験(約40分)、授業全体に関する質疑応答
成績評価の方法	平常点(授業日の翌月曜締切りで質問・コメントをメールにて提出、授業に欠席した場合はレジュメや適宜参考文献を読んでコメントを提出)4割+期末テスト6割、合計100点満点。
成績評価基準の内容	週明け月曜をメットとしたコメントをメールで教員に送ることをもって平常点評価とする(評価総合点の40%)。期末テストでは、本授業で学んだことに基づき、文化人類学的思考で答案を作成できたかを判断する(評価総合点の60%)。
教科書(テキスト)	毎回、スライドに対応したレジュメを配布する。必要に応じて文献資料を配布する。いずれも、Google ClassroomにPDFでアップロードする。
教員紹介	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所特定研究員、(聴者)、博士(社会学・一橋大学)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	社会学			授業形態	講義
履修学年	1年生(37期)	時間数	15 時間	単位数	1 単位
担当教員	武山 梅乗	履修分類	基礎科目	科目分類	社会

授業概要	手話通訳士試験の筆記科目「国語」で、合格点を取る。
到達目標	・社会学がどのような学問なのかを、ミクロ、メゾ、マクロの各レベルにおいて理解する。 ・地域において生じている問題を社会的な観点から理解し、解決策を提案できるようになる。 ・社会的排除やジェンダーなど様々な社会問題について社会的な視点から理解を深めるのと同時に、解決策を提案できるようになる。
授業内容(予定)	
1	社会学における「社会」とは何かについて確認した後、ミクロからメゾを経てマクロレベルに至るまでの社会の諸相について、社会学理論に基づいて学習する
2	社会学における「社会」とは何かについて確認した後、ミクロからメゾを経てマクロレベルに至るまでの社会の諸相について、社会学理論に基づいて学習する
3	地域＝コミュニティの問題について、社会的排除、ジェンダーといった視点を踏まえつつ学習する
4	地域＝コミュニティの問題について、社会的排除、ジェンダーといった視点を踏まえつつ学習する
5	医療社会学や福祉社会学の知識体系に基づき、障害を持つことの意味や障害者に対する差別や偏見などについて学習する
6	医療社会学や福祉社会学の知識体系に基づき、障害を持つことの意味や障害者に対する差別や偏見などについて学習する
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
成績評価の方法	授業への参加態度
成績評価基準の内容	授業への参加態度(100%)
教科書（テキスト）	なし(講義時にパワポ資料を配布する)
教員紹介	田園調布学園大学人間福祉学部共生社会学科 準教授

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	現代社会			授業形態	講義
履修学年	1年生(37期)	時間数	30 時間	単位数	2 単位 ●
担当教員	川口 千佳	履修分類	基礎科目	科目分類	社会

●同科目において他授業あり

授業概要	手話通訳士試験の筆記科目「国語」で、合格点を取る。
到達目標	手話通訳者に必要な地理・世界史・日本史・政治経済などの基本的な知識を身につけ、それらについて自分のことばで説明できるようになる。
授業内容(予定)	
1	オリエンテーション
2	長文読解・要約
3	社会人基礎力・レポートの書き方
4	世界史・日本史
5	時事ニュース
6	時事ニュース
7	まとめ
8	－
9	－
10	－
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	授業態度、レポート、発表、小テスト 小テストについては、基準に満たない者には再テストを課して確実な理解・定着につなげる
成績評価基準の内容	授業への参加態度(40%)、課題・レポート提出(40%)、小テスト(10%)、リアクションペーパー提出と内容(10%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科専任教官(手話通訳士)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	現代社会			授業形態	講義
履修学年	1年生(37期)	時間数	30 時間	単位数	2 単位 ●
担当教員	市田 泰弘	履修分類	基礎科目	科目分類	社会

●同科目において他授業あり

授業概要	手話通訳士試験の筆記科目「国語」で、合格点を取る。
到達目標	手話通訳者に必要な地理・世界史・日本史・政治経済などの基本的な知識を身につけ、それらについて自分のことばで説明できるようになる。
授業内容(予定)	
1	導入
2	現代社会を知るための古代
3	現代社会を知るための中世(近世の始まり)
4	現代社会を知るための近世
5	現代社会を知るための近代
6	現代社会を知るための科学
7	現代社会を知るための経済
8	まとめ
9	－
10	－
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	授業態度、レポート、発表、小テスト 小テストについては、基準に満たない者には再テストを課して確実な理解・定着につなげる
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、課題・レポート提出(25%)、小テスト(25%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科元主任教官(手話通訳士)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	心理学			授業形態	講義
履修学年	1年生(37期)・2年生(36期)	時間数	15 時間	単位数	1 単位
担当教員	野寄茉莉	履修分類	基礎科目	科目分類	心理

授業概要	手話通訳士試験の筆記科目「国語」で、合格点を取る。
到達目標	心理学の基本的な知識を用いた議論に参加できる
授業内容(予定)	
1	心理学とは、学びのしくみ① 知能の心理学
2	学びのしくみ② 記憶の心理学
3	社会性とは① 自己を知る
4	社会性とは② 他者を知る
5	社会性とは③ 社会行動
6	心の個人差① パーソナリティの心理学
7	心の個人差② 遺伝と環境の心理学
8	心の個人差③ 発達障害とその支援
9	－
10	－
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	複数回のレポートによる
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、レポート提出(50%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	弘前大学教育学部講師(聴者)、博士(学術・東京大学)、教育心理学

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	カウンセリング			授業形態	講義
履修学年	1-2年生合同 (36・37期)	時間数	15 時間	単位数	1 単位
担当教員	河崎 佳子	履修分類	基礎科目	科目分類	心理

授業概要	聴覚障害者カウンセリングの実情を知る。 また、心理相談における手話通訳者の役割、心理士との関係、心理相談通訳の専門性について学ぶ。
到達目標	手話通訳士試験の筆記科目「国語」で、合格点を取る。
授業内容(予定)	
1	聴覚障害者カウンセリングの現場から①:自傷行為や「親密欲求」がエスカレートした事例
2	聴覚障害者カウンセリングの現場から②:母親から「息子が怖い」と怯えられた事例
3	聴覚障害者カウンセリングの現場から③:周りから「あなたはろう者の理想だ」と羨ましがられた事例
4	聴覚障害者カウンセリングの現場から④:職場での人間関係に苦しむ事例
5	心理相談における手話通訳①:心理士と通訳者の連携
6	心理相談における手話通訳②:手話通訳者の "思い"
7	心理相談における手話通訳③:心理相談通訳の専門性
8	心理相談における手話通訳④:展望
9	－
10	－
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	複数回のレポートによる
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、レポート提出と内容(50%)
教科書(テキスト)	「きこえない子の心・ことば・家族」(明石書店)、「聴覚障害者の心理臨床②」(日本評論社)
教員紹介	関西学院大学手話言語研究センター客員研究員・神戸大学名誉教授(聴者)、博士(教育学・京都大学)臨床心理学、発達臨床心理学

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	リハビリテーション概論			授業形態	講義
履修学年	1年生(37期)	時間数	15 時間	単位数	1 単位
担当教員	江原 こう平	履修分類	基礎科目	科目分類	知識

授業概要	聴覚障害者に関連する施設を見学し、理解したことをまとめて発表する。
到達目標	手話通訳士試験の筆記科目「国語」で、合格点を取る。
授業内容(予定)	
1	オリエンテーション・障害とは(障害の定義)・ICIDHとICF
2	生活のしづらさ調査・障害者福祉の歴史と法制度
3	リハビリテーションとQOL
4	ICF概念
5	－
6	－
7	－
8	－
9	－
10	－
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	授業参加度(リアクションペーパー)とレポートを総合する。 レポートについてはClassroomにて連絡する。
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、レポート(25%)、リアクションペーパー(25%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	手話通訳学科専任教官(聴者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	社会福祉概論			授業形態	講義
履修学年	1年生(37期)	時間数	15 時間	単位数	1 単位
担当教員	角田 慰子	履修分類	基礎科目	科目分類	知識

授業概要	・社会福祉とは何かについて学ぶ ・福祉政策を捉える基本的な視点として、人々の生活上のニーズについて、福祉政策と結びつけて学ぶ ・社会福祉の歴史的展開過程と社会福祉の理論について学ぶ
到達目標	手話通訳士試験の筆記科目「国語」で、合格点を取る。
授業内容(予定)	
1	社会福祉とは何か(Stage2,3)「福祉」という言葉について考える
2	社会福祉とは何か(Stage2,3) 社会福祉の理論と論点
3	社会福祉とは何か(Stage2,3) 社会福祉成立前史
4	社会福祉とは何か(Stage2,3) 欧米における社会福祉の展開(1)
5	社会福祉の仕組みと成り立ち(Stage1,2,4,5) 欧米における社会福祉の展開(2)
6	社会福祉の仕組みと成り立ち(Stage1,2,4,5) 日本における社会福祉の展開
7	社会福祉の仕組みと成り立ち(Stage1,2,4,5) 個人の要望と社会のニーズ(必要)
8	社会福祉の仕組みと成り立ち(Stage1,2,4,5) 個人の要望と社会のニーズ(必要)
9	日本における福祉政策の動向 (Stage6,7,10,NewStage) 社会福祉法制度の概要と基本原理・原則－「自立」規定を中心に－
10	日本における福祉政策の動向 (Stage6,7,10,NewStage) 障害者運動が問いかけたもの
11	日本における福祉政策の動向 (Stage2,8) 福祉政策の動向－「地域共生社会」という政策理念－
12	日本における福祉政策の動向 (Stage2,8) 福祉政策の動向－「地域共生社会」という政策理念－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	授業への参加態度・レポート・リアクションペーパー
成績評価基準の内容	授業への参加態度(35%)、レポート(50%)、リアクションペーパー(15%)
教科書(テキスト)	「ウェルビーイング・タウン 社会福祉入門 改訂版」、有斐閣アルマ、岩田正美 他(著)、2013 【参考文献】①山縣文治・岡田忠克編著『やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ よくわかる社会福祉[第11版]』(ミネヴァ書房 2019) ②吉田久一・岡田英己子著『社会福祉思想史』(勤草書房 2000) ※その他、授業の中で適宜紹介する
教員紹介	東京学芸大学 講師 講師・講義は、基本的に指定したテキストに沿って進めます。ただし、テキストに書いてあることをそのまま受け取るのではなく、そこで示された諸課題を具体的な事例に引きつけて受講者が自ら考え、意見交換をしながら考察を深めることに主眼を置きますので、授業には積極的に参加しましょう。予習・復習として、テキストの該当箇所をよく読み、疑問点等をメモしておくこと。その他、担当者が示した課題に必ず取り組んだ上で、授業に臨んでください。

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	法学概論			授業形態	講義
履修学年	2年生(36期)	時間数	15 時間	単位数	1 単位
担当教員	松田 峻	履修分類	基礎科目	科目分類	知識

授業概要	手話通訳に必要な法学に関する実践的な基礎知識を学ぶ
到達目標	手話通訳士試験の筆記科目「国語」で、合格点を取る。
授業内容(予定)	
1	刑事訴訟手続き①:警察と検察
2	刑事訴訟手続き②:逮捕～拘留、取り調べと手話通訳
3	刑事訴訟手続き③:刑事裁判
4	刑事訴訟手続き④:証拠調手続き
5	司法通訳倫理①:司法通訳人の役割
6	司法通訳倫理②:司法通訳倫理原則(案)
7	裁判員制度
8	模擬裁判
9	－
10	－
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	用語の理解を問う小テスト、ディスカッションにおける発表
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、小テスト(50%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	弁護士(ろう者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	医学概論			授業形態	講義
履修学年	1年生(37期)	時間数	10 時間	単位数	1 単位
担当教員	堀岡美由紀	履修分類	基礎科目	科目分類	知識

授業概要	コミュニティ通訳で最も通訳件数が多いのは「医療場面」における通訳である。医療通訳を行うにあたり、通訳者として必要な知識を身につける。
到達目標	手話通訳士試験の筆記科目「国語」で、合格点を取る。
授業内容(予定)	
1	病院のしくみ(医療機関とは、保険医療と自費医療など)
2	からだのしくみと病気1:骨と筋肉、皮膚
3	からだのしくみと病気2:脳神経、循環器
4	からだのしくみと病気3:消化器、内分泌、泌尿器
5	病気、検査、薬(処方箋含む)
6	－
7	－
8	－
9	－
10	－
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	用語の理解を問う小テスト
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、小テスト(50%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	当学院脳卒中リハビリテーション認定看護師教育課程専任教官(看護師)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	情報リテラシー			授業形態	講義
履修学年	1年生(37期)	時間数	15 時間	単位数	1 単位
担当教員	深井 裕美子	履修分類	基礎科目	科目分類	表現

授業概要	Windowsパソコンを用いて、その基本操作について学ぶ。基本アプリケーションやインターネットサービスを用いた問題解決課題に対して、インターネットでの検索も含めて自力で解決できる力を身につける
到達目標	手話通訳士試験の筆記科目「国語」で、合格点を取る。
授業内容(予定)	
1	パソコンの基本操作(メール、グーグルクラスルームなど)
2	パソコンの基本操作(Zoom)
3	パソコンの基本アプリケーションの使い方(ワード)1
4	パソコンの基本アプリケーションの使い方(ワード)2
5	パソコンの基本アプリケーションの使い方(パワーポイント)1
6	パソコンの基本アプリケーションの使い方(パワーポイント)2
7	パソコンの基本アプリケーションの使い方(パワーポイント)3
8	ネット検索とAIの基礎
9	－
10	－
11	－
12	－
13	－
14	－
15	－
成績評価の方法	ワードの文書やパワーポイントの発表資料を実際に作成する課題
成績評価基準の内容	授業への参加態度(20%)、プレゼンテーション(40%)、課題・レポート提出(40%)
教科書(テキスト)	なし
教員紹介	株式会社ネスト代表取締役、日本映像翻訳アカデミー講師(聴者)

令和8年度 手話通訳学科 シラバス(授業計画)

授業科目	身体表現論			授業形態	講義
履修学年	1年生(37期)	時間数	10 時間	単位数	1 単位
担当教員	雫境	履修分類	基礎科目	科目分類	表現

授業概要	呼吸と身体の動きの関連性を認識し、自身の身体表現力を高める。
到達目標	手話通訳士試験の筆記科目「国語」で、合格点を取る。
授業内容(予定)	
1	呼吸法:呼吸と身体動作の基礎理論
2	手指の運動:末梢部の表現
3	足腰の運動:重心と安定
4	身体動作の効率性:無駄のない動きの探求
5	空間と身体:自己と周囲の距離感
6	—
7	—
8	—
9	—
10	—
11	—
12	—
13	—
14	—
15	—
成績評価の方法	通常の練習における態度と技能の習得の達成度にもとづき評価する
成績評価基準の内容	授業への参加態度(50%)、技能の習得の達成度(50%)
教科書(テキスト)	特になし(適宜資料を配布)
教員紹介	舞踏家、日本社会事業大学非常勤講師(ろう者)